

## 学校が地域の中の学校であり続けること

～地域と共に創る学校 地域に愛される学校 地域を愛する子どもを育む学校～



鴨居小学校 学校運営協議会の委員や地域の方に地域の魅力をインタビューする総合的な学習の時間(第6学年)の様子



常葉中学校ブロックの学校運営協議会委員が参加した小中一貫に関する日(田戸小 体育館)の様子

日頃より学校運営協議会に係る様々なお取組に御礼申し上げます。

本紙は、令和4年度から横須賀市内全学校に設置された学校運営協議会をより充実した組織にしていくために発行しているものです。

今回は、浦賀行政センターとの連携や、田戸小学校で取り組まれているコーディネータの事例を紹介しながら、今後の本市学校運営協議会の在り方について、皆様と考えていきたいと思ひます。

様々な学校から「学校運営協議会で話し合ったことを実現するためにも地域と学校をつなぐコーディネーターのような方がいれば…」というようなご意見をいただくことが多くなってきました。

そこで、浦賀中・浦賀小・高坂小・鴨居小で学校運営協議会委員を務めながらこれまで様々な地域と学校をつなぐ活動（コーディネート）をされてきた浦賀行政センター館長の和田明さんと、浦賀行政センター地域コミュニティ職員として地域と学校をつなげる役割（コーディネーター）を担当している今津陽菜さんにお話を伺いました。

浦賀行政センター和田館長と今津さんに聞く  
浦賀・鴨居地区の学校運営協議会



## 行政センターだからできること

**渡辺（市教委担当）**／和田館長は、様々な学校で学校運営協議会の委員をされていますが、協議会の際に意識されていることはありますか。

**和田館長**／学校の困りごとの相談・解決のために、何ができるかを常に考えています。特に地域と学校の間に入ることができるので、自分たちの持っている情報の中で役所のルール範囲内で伝えられる情報はできる限り伝えようと思って参加しています。

**渡辺**／これまでの学校との関わりの中で、心に残っているエピソードはありますか。

**和田館長**／一番インパクトがあったのは、担任の先生の困り事を一緒に解決できたことです。ある学校で、家がゴミ屋敷のようになっている家庭のお子さんが通学できないことを聞いて、私は生活の支援の立場で担任の先生と一緒に家庭訪問をしたことがありました。少しだけですが、担任の先生のお手伝いできて、その子も学校行事に参加することができました。



**渡辺**／よく子どもたちの学習のゲストティーチャーとして和田館長をお見かけしていたのですが、そのような活動もされているのですね。

**和田館長**／むしろ、行政センターはそういう福祉や民生の方が得意なんです。学校運営協議会の委員になって、学校に信頼してもらえるようになり、そういうネガティブなことも相談してもらえたので、解決のために動くことができました。

**渡辺**／今津さんは、この仕事をされて2年目と聞いていますが、最初にこの地域と学校をつなぐコーディネーターを任されて、その仕事のイメージはもてましたか？

**今津さん**／正直、全くイメージできませんでした。こんな仕事もあるのかと…。でも、学校運営協議会にオブザーバーとして参加させてもらったり、実際に活動したりしていくうちに、地域と学校の間には行政センターが入ってできることってたくさんあるなと思いました。

**渡辺**／これまでの2年間の活動で印象に残っていることはありますか？

**今津さん**／昨年度、浦賀小学校の6年生が地域に子育て支援施設がないことを地域の課題と捉えて、行政センターの空きスペースを使い、赤ちゃんやお母さんが集える「愛らんど浦賀」をつくるという取組をしたのですが、そのお手伝いをしたことです。

**渡辺**／それ、私も見学に行きました。子どもたちが細部までこだわって赤ちゃんや

お母さんたちがくつろげるスペースをつくって良かったですよね。



浦賀行政センター2階に完成した「愛らんど浦賀」  
(令和5年12月)

**今津さん**／子どもたちの考えを実現できるように、お手伝いできたのはとても楽しかったです。

## コーディネーターとしての意識

**渡辺**／コーディネーターとして活動する時に大切にしていることは何ですか？

**今津さん**／私は子どもに感覚が近いので、子どもの気持ちになって考えたり、ちょっとだけアドバイスしたりしています。ちょっとつけ足すとよいことや、足りないことを私の存在で埋めていきたいです。

**和田館長**／子育て支援のスペースは、子どもたちのアイデアを採用して今年度、実際に行政センターの中につくりました。

**今津さん**／子育て支援スペースをつくる時には、子どもたちに来てもらって、あるとよいものや、レイアウトも一緒に考えました。放課後に「今津さん、遊びにきたよ」と来てくれる子もいて、嬉しいですね。

**渡辺**／逆に、今の活動について改善点はありますか。

**今津さん**／浦賀地区は先生方にも行政センターがコーディネーターとしての仕事をしていることを知ってもらっているのですが、まだまだ学校に知られていないのかなと感じることはあります。もっと助けられることはあると感じていますが、先生方が私たちの存在を知らないのかもしれないと思うことはあります。

**和田館長**／うまくいかないこともたくさんありました。教育の話は、地域の人も保護者も分かりづらいことがあります。そのため、話し合いの最初は、地域の思いと学校の思いに大きなズレがあることがある。その、お互いの思いを聞き取って、何度も顔を合わせて話し合っていくと、だんだんとその溝が埋まってくる。そのズレを埋めるのが私たちの役目なのかなと思います。

## 今後の抱負は？

**今津さん**／私以外にも4人の職員が地域と学校のコーディネートを担当しています（右上の写真）。このような活動が市内全体に広がって、それぞれが助け合ってよい地域にしていければと思います。

**和田館長**／学校は子どもたちのために授業に集中してほしいと思っています。だから学校の稼業時間もしっかり守りたいです。その分、地域のことは私たちに任せてほしい。いろいろな引出しをもっています。様々な方や企業、市役所の部署につなげることもできます。学校運営協議会の委員を探している時もぜひ相談してほしいです。



浦賀行政センター地域コミュニティ係のみなさん  
（令和6年12月4日撮影：「プレイルーム」前にて）



「愛らんど浦賀」の現在の活用について和田館長から紹介していただきました。

今年度、「スクールコミュニティ」事業を所管する地域コミュニティ支援課と学校を中心とした地域コミュニティの在り方について協議を重ねてきました。

当初の学校に地域の人々の居場所をつくるという考え方から、地域と学校の連携による人と人との「つながり」をつくることこそが大切であり、そのための支援を行う事業なのだという点を改めて整理し確認しました。地域によっては行政センターだけでなく、これまでも地域と学校のコーディネートを行ってきた方や団体があります。今後は学校運営協議会と連携・協働することで学校にとっても地域にとってもよりよい関わりが生まれてくるのではないのでしょうか。

田戸小学校は今年度から学校運営協議会で協議したことを実際の教育活動に結びつけていくために、学校独自で地域と学校の活動をコーディネートするお仕事を地域の方に委嘱しました。

田戸小学校でそのコーディネーターをされている吉田恵子さんとコーディネーターを立ち上げるアイデアを立案した教頭の瀧澤和人先生にお話を伺いました。



田戸小学校の新たな取組

## 地域とつながり続けていくために

### 地域コーディネーターという役割

**渡辺（市教委担当）**／なぜ田戸小学校は、今年度から、地域とのコーディネーター役を吉田さんに依頼されたのですか。

**瀧澤教頭**／教員や管理職は毎年のように移動があります。地域とのつながりの強い教員や管理職がいる時は良いけれど、その人が居なくなると地域と学校の活動が無くなるということでは、持続可能なものにならないと思いました。地域をよく知っている方に委嘱したら、地域の人やものを紹介

していただけることもできますし、学校との活動の引継ぎもスムーズになると思ったからです。

**渡辺**／なぜ、コーディネーターを吉田さんをお願いしようと思ったのですか。

**瀧澤教頭**／吉田さんは、これまで学校施設開放委員会の代表をしてくれていました。その時から学校側の目線に立って、地域の方とお話をしてくださる方だと感じていたからです。



**渡辺**／吉田さんは、このお仕事を依頼されて半年ほどになりますが、いかがですか。

**吉田さん**／全くと言ってもいいのですが…まだまだです。今は、瀧澤先生に勧められて神奈川県生涯学習課が主催している生涯学習指導者研修「学校と地域との協働推進コース」に参加して学んでいます。その研修は、年間4回あって、他地区のコーディネーターさんのお話を聞いたり、地域の人とのつながり方や子どもとのつながり方などについて学んだりしています。

**渡辺**／最初から全てを理解して、コーディネーターできる人はいませんからね。学び続けていくことも大切ですよ。その中でも、この半年で何か成果を感じられるようなことはありますか。

**吉田さん**／今年から教室に入れないう子や不登校傾向のある子のために「ほっとすルーム」という居場所が学校の中にできました。その場所で子どもたちを見守ってくださるボランティアを地域の方の中から探してことができました。ただ、子どもの安心や安全に関わることなので、誰でも良いというわけではありません。誰に依頼していくのかという人選が難しかったです。

**瀧澤教頭**／「ほっとすルーム」は常葉中学校にもあるもので田戸小学校にもつくって

みたのですが常に大人がいられるわけではないので助かりました。



田戸小の「ほっとすルーム」 児童手づくりの看板



田戸小の「ほっとすルーム」の様子

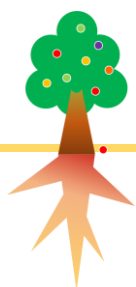
教室とは思えないような空間にしたいとのこと。今後どのように活用されるか楽しみになった。

**渡辺**／瀧澤先生は、神奈川県教育委員会の生涯学習課で地域学校協働活動の推進などを担当されていたと伺っていますが、どのような方がコーディネーターに向いているのでしょうか。

**瀧澤教頭**／学校に入って何かをしたいと思う人はたくさんいると思いますが、学校の立場を尊重して慎重に物事を進めてくれる人だと思います。学校も限られた時間と人材の中で運営しているので、学校の課題を共有して、学校と地域がゆるやかにつながれるようになるといいなと思います。

## 今後の抱負は？

**吉田さん**／今年ではできなかったのですが、地域と学校で進めている総合的な学習の時間のゲストティーチャーとは自分もつながっていきたくて、地域の中に子どもたちが学習で出かける時には先生方に同伴して、地域の方と積極的につながっていきたくて、他の学校にもコーディネーターができれば、その方たちとも情報交換してよい事例を取り入れていきたくて。

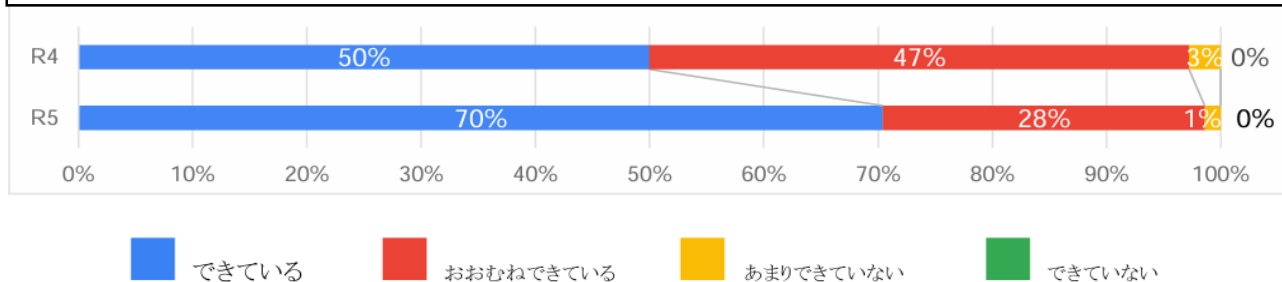


## 学校運営協議会アンケートから 現状と今後の展望を考える

学校運営協議会の推進状況を把握するために、毎年アンケート調査を行っています。回答数は令和4年度 委員326名、令和5年度 委員315名、学校は全ての学校長に回答をいただきました。アンケート結果も蓄積されてきましたので、特長的な結果をいくつかご紹介いたします。

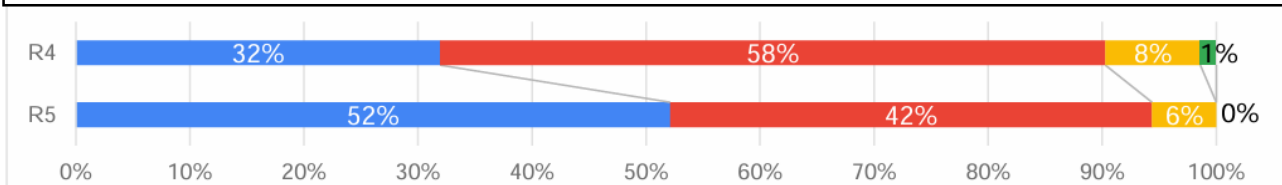
### 学校長アンケート

協議会では、学校教育目標や学校として育てたい子ども像、学校運営のビジョンなどが共有されている。



学校長のアンケート結果は、ほぼ全ての回答で、肯定回答の上昇が見られました。中でも目標の共有に関する質問は「できている」の上昇値が最も大きかったものです。学校長が、学校運営協議会の理念や進め方についての理解が深まり、熟議したことを学校運営につなげていくビジョンがもてるようになった結果だと考えられます。

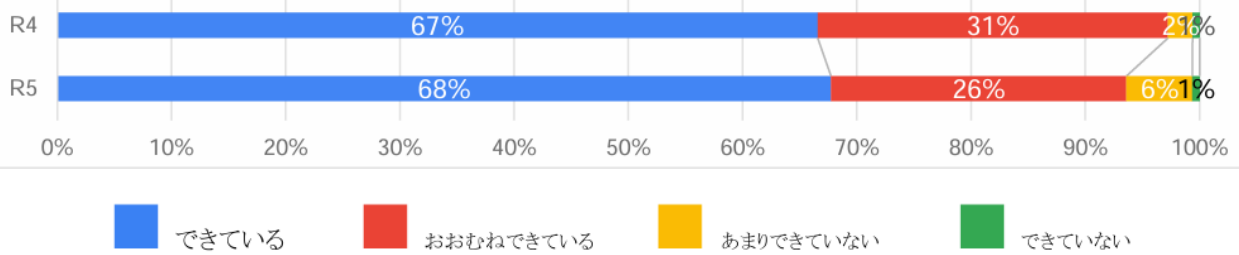
学校の問題や悩みは、協議会委員の中で共有されている。



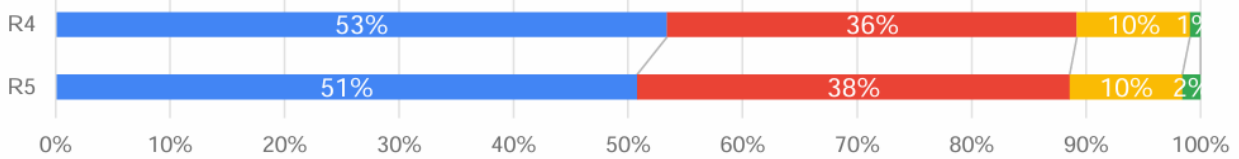
この結果は、学校の問題や悩みなど踏み込んだ内容についても熟議ができるようになった結果であると考えられます。また「協議会内は忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある」という結果についても肯定的な回答は100%に近い結果でした。委員と学校が普段から何でも相談できる関係になってきていると感じます。

## 委員アンケート

協議会では、質問①（学校教育目標等の実現）に向けて、具体的な取組や支援について協議している。



協議会で議論したことによって、学校や地域の具体的な取組につながることもある。



委員アンケートの結果からは『具体的な取組や支援』についての2つの質問を抽出しました。具体的な取組について協議する結果は90%を超え、協議の結果から具体的な取組につながったことがあるという回答も90%近い結果になっています。学校運営協議会設置3年目の結果としては、とても高い数値であると感じます。

自分たちで話し合ったことが実現したという経験は、学校運営協議会委員としての自信やモチベーションにつながります。学校運営協議会では、学校教育目標の実現に向けた具体的な取組のアイデアを出し合うだけでなく、それらをランキングしたり、優先順位を考えるような熟議も考えられます。

これまで学校の教育活動は、地域の方や保護者がボランティアとして関わる場合、常に学校の担当者や教頭先生が窓口となってきました。しかし、学校運営協議会ができ、その役割や窓口を学校と地域もしくは行政が分担して担うような事例も増えてきています。今後も、学校教育目標の実現につながる『具体的な取組や支援』について熟議を重ねていってください。



船越小学校の2年生の生活科  
「まちたんけん」は地域の方が今年から引率ボランティアとして参加しています。

## アンケート結果について

全てのアンケート結果については後日、学校長を通じて、委員の皆様へ送付させていただきます。この結果を見ながら、委員の皆様で語り合うことも学校運営協議会をよりよくしていくための熟議となり得ます。ぜひお時間のある時にご覧ください。



## 学校運営協議会オンデマンド研修動画

今年の6月に、横須賀市で目指す学校運営協議会の理念や目標、学校運営協議会委員の皆様にごどのような働きや協議会の運営を行っていただきたいかなど、学校運営協議会の基本的な内容について多くの方に知っていただくために、オンデマンド研修資料を作成しました。



横須賀市教育委員会教育指導課  
チャンネルアイコン

●右のQRコードを読み取るとオンデマンド画面に移動できます。  
You Tubeの検索画面で「横須賀市教育委員会教育指導課」  
(URL [https://www.youtube.com/channel/UC6J-uTJ5stA1D\\_XLtt8\\_Wqg](https://www.youtube.com/channel/UC6J-uTJ5stA1D_XLtt8_Wqg))  
を検索してもチャンネル画面に移動することもできます。



●動画の時間は33分です。  
スライド資料を動画にしています。途中スライド資料の文字等が見えにくい場合は、画面を一時停止するなどしてご対応ください。

## 学校運営協議会設置3年目を振り返って

横須賀市で学校運営協議会が設置され、3年が経とうとしています。

市内のある小学校では、総合的な学習の時間の中で地域の方と交流するイベントを企画しました。子どもたちは、学校運営協議会の人たちに自分たちの考えをプレゼンして企画を実施・成功させることができました。活動を振り返り、ある子が言った

「大人になったら学校運営協議会の委員になって、この活動をつなげていきたい」という言葉が今でも忘れられません。

今、目の前に3年間の明確な成果が見えなくても、この学校運営協議会の仕組みがある限り、地域と学校の支えの元で子どもたちは育ちます。そして、地域や学校を愛する気持ちがゆっくりと醸成されていくのではないかと考えています。もしかすると、子どもたちが大人になった時に表れてくるような成果も中にはあるのかもしれませんが。

この3年間で「もう3年…」と捉えるか「まだまだ3年…」と捉えるのか、皆さんはどちらでしょうか。



編集後記にあたり、日頃から学校運営協議会委員として地域の子どもたちへ惜しみなく愛情を注いでくださる皆様へ心から感謝申し上げます。今後も学校運営協議会は続いています。情報交換会やこの「学校運営協議会だより」から、市内の事例や理念を共有し、充実した教育環境を築く一助となれば幸いです。引き続き力を合わせ、横須賀の子どもたちの未来を支えていく学校運営協議会をつくっていきましょう。